

令和 7 年 トキの分散飼育の状況等について

1. 令和 7 年 トキの分散飼育の状況について

(1) 取組方針

国のトキ野生復帰検討会の方針に基づき、『自然繁殖（自然ふ化、自然育雛）』を基本として、C L ペア、C O ペア及びC X ペアの計 3 組（6 羽）で繁殖に取り組みました。

(2) ふ化状況

令和 7 年の繁殖期には、3 月 2 7 日に初の産卵を確認後、計 1 8 個の産卵があり、5 羽のヒナがふ化し、2 羽が人工ふ化、3 羽が自然ふ化でした。

なお、ふ化したヒナのうち 1 羽については、自然育雛中巣から落下し死亡しました。

(3) ヒナの今後

4 羽のヒナは、秋頃まで分散飼育センターにおいて飼育した後、野外への放鳥候補個体等とするため、佐渡トキ保護センターに移送する予定です。

その後、佐渡トキ保護センター野生復帰ステーションにおいて、野生復帰に向けた順化訓練を行い、放鳥を目指すこととなります。

【令和 7 年繁殖結果】

単位（個・羽）

繁殖ペア		産卵数			ふ化数
		有精卵	無精卵	不明	
C L ペア	12	7	2	3	5（人工 2、自然 3）
C O ペア	0	0	0	0	—
C X ペア	6	2	2	2	0（人工 0、自然 0）
合計	18	9	4	5	5（人工 2、自然 3）
【参考】 令和 6 年繁殖結果	24	8	1	15	6（人工 2、自然 4）

※不明とは、破卵・巣外投棄・腐敗等により、有精無精の判定ができなかったもの。

※繁殖ペアの形成は、C L ペア（5 年目）、C O ペア（3 年目）、C X ペア（2 年目）



2. トキの放鳥候補地の選定について

令和9年度の放鳥、その後の定着に向けては、トキの採餌環境の整備が急務であることから、次のとおり放鳥候補地を選定し、採餌環境の改善につながる取組を集中的に進めます。

(1) 放鳥候補地

稗原地区（具体的な放鳥場所は今後検討します。）

※初回の放鳥候補地として選定します。2回目以降の放鳥候補地については、放鳥後のトキの分散状況等を基に、初回の放鳥後に検討します。

(2) 選定理由

国が提示した放鳥要件等を踏まえた主な選定理由については次のとおりです。

【トキの放鳥要件】（自然環境部分を一部抜粋）

- ・ 餌資源量調査が実施されている
- ・ 餌資源量が放鳥開始時の佐渡島と同程度ある
- ・ ねぐらに適した場所が佐渡島と同程度ある
- ・ トキの生息に適した環境保全型農業等が実施されている

① 餌資源量調査の結果

佐渡島に似た里山景観、ドジョウの生息状況等を踏まえ、季節ごとのトキの餌生物の生息状況を把握するトキの餌資源量調査を、本年1月から、稗原地区野尻町地内において実施しています。当該調査における冬季の調査結果（速報値）に基づくと、冬季の餌資源量は、国が提示した基準を上回っていました。

冬季は餌資源量が最も少ない季節であり、その結果を踏まえると、他の季節（春・夏・秋）も、餌資源量が確保できると想定できます。ただし、本市にトキを定着させるためには、餌資源量の増加に向けた更なる取組が必要です。

② 地域の協力体制

稗原地区は、江（え）やビオトープ等、トキの採餌環境の確保に資する取組を進められるなど、以前からトキの放鳥に向けたご協力をいただいています。また、放鳥候補地の選定に向けた積極的な要望や農地環境保全に関する取組を組織的に実施されています。今後、ドジョウ等、冬季の餌資源を確保するため、江をはじめとした通年湛水箇所の整備・復元の協力を依頼したいと考えています。

③ 環境にやさしい農業の普及

環境保全型農業の取組が進んでおり、トキの餌の安定的な供給が見込めます。

<参考> トキの餌資源量調査

ア 調査内容

トキの餌となる生物の捕獲、目視確認による季節ごとの生息状況調査及び生息環境のデータ整理

- ① 現地調査によるトキの餌となる生物の生息密度（個体数、湿重量※）調査
※湿重量：生物の体内に含まれる水分も含めた重量
- ② 水田の性状・管理状況等の生息環境情報調査
- ③ 調査範囲における餌資源量の推計

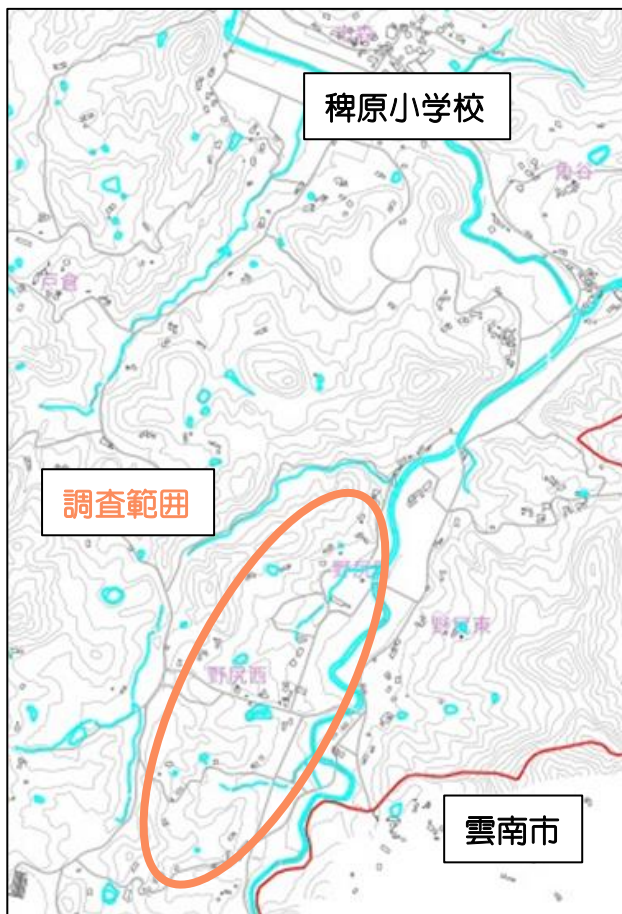
イ 調査期間

令和7年1月～令和7年12月

ウ 調査範囲

(位置図)

(調査範囲の航空写真)



3. トキ一般公開の状況について

昨年4月、トキ公開施設の来館者数が10万人を達成し、記念セレモニーを開催しました。秋頃には、今年誕生したトキの期間限定の公開を予定しており、特別天然記念物のトキを間近で観察できる施設として、引き続き、トキの情報・魅力を発信していきます。

【トキ公開施設の来館者数】

年度	4～5月			通年			
	開館日数	来館者数	平均	開館期間	開館日数	来館者数	平均
R 7	53日	7,423人	140人	4～3月	—	—	—
R 6	53日	9,663人	182人	4～3月	309日	19,719人	64人
R 5	53日	6,372人	120人	4～3月	310日	18,997人	61人
R 4	53日	10,057人	190人	4～3月※	273日	24,180人	89人
R 3	53日	8,364人	158人	4～3月	307日	23,352人	76人
R 2	—	—	—	7～3月	229日	15,099人	66人
R 1	—	—	—	7～12月	155日	16,634人	107人

※R4年度は監視カメラ更新工事のため、12月は休館、1月は休館期間あり